

足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	第1回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
事 務 局	地域のちから推進部 生涯学習支援室 室長 田ヶ谷 正 地域文化課広域施設係 係長 原田 裕介 係員 竹本 賢貴		
開催年月日	令和3年9月1日（水）		
開催時間	午後1時30分 ～ 午後4時00分		
開催場所	ギャラクシティ レクリエーションホール2		
出席者	渡辺 千歳 委員 （東京未来大学 こども心理学部教授）	山縣 朋彦 委員 （文教大学教育学部 学校教育課程教授）	伊志嶺 絵里子 委員 （東京藝術大学 音楽学部非常勤講師）
	酒井 雅男 委員 （銀座ヒラソル法律事 務所 弁護士）	四宮 淳司 委員 （足立区少年団体連合 協議会副会長）	
欠席者	高橋 佑介 委員 （足立区立小学校PTA連合会副会長）		
会議次第	1 開 会 2 委員長、副委員長選出 3 資料確認・説明 4 指定管理者ヒアリング 5 意見交換 6 閉会		
資 料	資料1 業務評価シート 資料2 業務評価チェックシート 資料3 加点提案書一覧 資料4 条例等一式 資料5 令和2年度仕様書 資料6 令和2年度事業一覧表 資料7 令和2年度各種報告書 資料8 令和2年度広報誌一式		
そ の 他			

【開会】

<原田係長>

令和2年度のギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきます。本日はご出席いただきありがとうございます。地域文化課広域施設係の原田と申します。よろしくお願いいたします。本日の評価委員会は足立区こども未来創造館条例に基づく区長の付属機関として開催させていただきます。そのため公開規定に基づき傍聴人が入場することもございますので、ご了承ください。初めに生涯学習支援室長の田ヶ谷よりご挨拶させていただきます。

【生涯学習支援室長挨拶】

<田ヶ谷室長>

本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。この評価委員会の評価につきましては、コロナで開館時間の短縮、あるいは休館をやむなくされるということで、2年前までは130万人の来場者を誇っていたものが、今回は30万を切るということで、どのように評価していくかということが前回から課題となっていたかと思います。今回は、指定管理の事業者が努力したものをどのように見ていくかということを知りやすく説明させていただきたいと思います。施設のハード面に関する評価につきましては、やったかやらないかという2択ということもございますので、このあたりは区のモニタリング結果を見ていただいて、どのようにお考えいただくかということで代えさせていただきたいと思います。その他、委員の皆様は裁量の範囲を広げて、その中でより良い評価をしていただきたいと思います。そして、その評価を反映した結果、区民の皆様により良いサービスを出していきたいと思っておりますので、ぜひ皆様にご協力いただきたいと思います。

す。よろしくお願いいたします。

【委員紹介】

【委員長互選】

<原田係長>

それでは委員長の互選に移りたいと思います。事務局といたしましては、昨年度に引き続き渡辺委員に委員長をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。それでは渡辺委員よりよろしくお願いいたします。

【副委員長指名】

委員長より副委員長のご指名をよろしくお願いいたします。委員長から副委員長の指名をお願いいたします。事務局といたしましては、昨年度に引き続き山縣委員にお願いしたいと考えております。それでは、渡辺委員よりよろしくお願いいたします。

<渡辺委員>

はい、昨年度に引き続きまして山縣委員にお願いしたいと思います。

【委員長あいさつ】

<原田係長>

それでは委員長よりご挨拶を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

<渡辺委員>

コロナがここまで長引くとは、皆さん思っていなかったと思います。去年の大変な時期が終わってれば、令和2年度に関しましては、本当は指定管理者がやりたいことをのびのびや

る時期であったと思うので、大変な時期に運営を任されたということも考慮しながら、評価を行わせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

<原田係長>

それでは、ここからの議事進行を委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

<渡辺委員>

令和2年度運営にかかる第1回運営評価委員会を開催いたします。開催にあたり事務局の方から資料の確認と説明をしていただきます

【資料確認（省略）・評価方法説明】

<原田係長>

今年度より評価の方法を変更させていただいております。まず一点目は、管理状況については、評価基準が管理資料の作成の有無などであり、委員の皆様が裁量が少ないところになりますので、区のモニタリング結果を説明させていただいて、追認いただけるかどうかご評価いただきます。2点目として、加点項目につきましては、これまでの数値目標を達成したかどうかではなく、仕様書プラスアルファで何ができたかを、提案書をもとに審査するという方式にさせていただきました。

【評価項目説明・質疑応答】

(渡辺委員)

それでは、評価項目に係る管理状況の説明について、事務局より説明いたします。

(原田係長)

それでは、まずは管理状況につきまして、こ

ちら事務局から簡単に説明させていただきます。この後に質疑応答の時間を設けさせていただきますので、私または指定管理者の方からお答えさせていただきますと思います。

【管理状況説明（省略）・質疑応答】

<四宮委員>

指定管理費が予算額よりも増えている。管理運営費としては常勤の給与なんかも増えているということで、入場者が減っていて、こういうところが増えているというが、一般企業ですと入場者が減るのであれば、人員削減とかに直結するのですが、反対にそれが増えているというのは、コロナ対策など安全管理上の理由で人が増えているのであればよいので、そのあたりがどうなっているのでしょうか。

<村田館長>

人件費につきましては、新たに子育てサロンに責任者を置きました。入場者数については、11月から施設を再開したものの、利用者、利用時間を大幅に縮小しての再開となりました。6月から開館したのですが、12月から再び一部施設の休止という形になりまして、全館休館ではないのですけれどもまるち体験ドーム、遊具施設等を休止しました。このように令和2年度は休止・休館を繰り返して、積極的に来館も促せなかったため、ジャパンフェスタなども動画配信を行うことでなんとか開催できた状況です。数字等のお知らせですが、昨年度は、来館者26万2367人、元年度に関しましては13万4919人です。対比でいうと19.4パーセント、8割弱の減少になってしまった。少ないながらも来館者アンケートをとりまして、以前であれば、区民が3割、区外が7割といったところが逆転しまして、区民が7割、区外が3割となりました。世代も20歳から29

歳のお母さん方、と未就学児が増えてですね、ギャラクシティに多かった、40歳から49歳の親と小学生が減りました。事業も3割程度で、テレワーク、時差出勤、消毒、換気対策定員の削減と対策を取りながら、事業を実施し、新たな試みとして動画配信制作、オンラインという形の取り組みもチャレンジしながら、何とかギャラクシティの事業体験を届けてきたということになります。後ほど事業説明で加点項目を中心にお伝えしたいと思います。以上でございます。

<渡辺委員>

それでは今のところで何か質問がありますか。無いようですので、それでは評価項目ごとの事業説明をお願いしたいと思います。

<村田館長>

まず管理状況の加点提案書になります。テレワーク推進と、クレンリネス（清潔な状態）キャンペーンについてご説明いたします。まず、テレワーク推進から、目的は新型コロナウイルス感染症対策で、達成目標としては、出勤者の7割削減です。実施時期は主に休館になりました4、5月に行いました。テレワークの規定を作りまして、パソコンやウェブカメラの貸与、テレワーク就業規則を整備しました。成果ですが、出勤率95パーセント減となりました。ただ、減らすことが目的ではないので、この間に何をやったかというのが大事で、今後オープンした時どう受け入れるかということにつきまして、プロジェクトチームを立ち上げ、ZOOMとクラウドを活用して在宅勤務を実施しました。在宅勤務者には勤務開始のメールを送ることを徹底しておりました。毎日、業務日報を提出さえるというのもやっておりました。そのなかでクラウドを活用しながら広報プロジェクト、クレンリネスキャンペーン活動を進めました。

もう一点、クレンリネスキャンペーンでは、コロナ対策として施設の清掃・消毒活動を行い、広報活動を通してイメージアップを図るというのを目的としました。達成目標としては、全館において特に汚れが目立つところ中心に実施ということで、通常の日常清掃ではできない、はく離作業やワックスコーティングを実施しました。文化ホールの公演時やまるちたいけんドーム投影時、子育てサロンなども毎回消毒しております。事業概要ですが、4月8日にキックオフがあって、4月、5月に取り組みを行いまして、7月あたりからキャンペーンということで皆様にご報告した方がいいということで広報活動も行いました。併せて、クライミングぱーくのホールドの清掃も行いました。成果としましては、通常の休館日では行えないはく離清掃とワックスコーティングを行えた。壁紙がはがれているところの補修も行いました。実際に写真で見てくださいたいのですが、9ページ以下の写真を載せております。館内の外壁の清掃写真です。事業で使う机・手すり等も消毒を行いました。11ページに関しては、クレンリネスキャンペーンの第二回レポートになります。12ページをご覧ください。13ページ以下は白黒だとかなりわかりにくいかもしれませんが、18ページをご覧くださいと清掃後というのがあるのですが、右がはく離するまえで、左がはく離した結果ということでかなり違います。20ページの階段と21ページの文化ホールはなかなか平日も時間を取ってやることができなかつたのですが、かなり違いが出ています。右側の外壁のコケみみたいなものも高圧洗浄機で落としました。22ページに関しては塗装補修を行いました。以上2点を加点項目として挙げさせていただきました。

<渡辺委員>

ここまでの加点提案書について、何かご質問

がありましたらどうぞ。では、一つ私から。テレワークのための機材とか環境面を整えて、1回目の緊急事態宣言以降、あまりみんなが出勤しないようにということもあったと思うのですが、5月以降のテレワーク状況というのはいかがだったのでしょうか？

<村田館長>

おっしゃるとおりです。6月から全館オープンになりましたが、極力テレワークでできるようにしました。7割には届かなかったのですが、出勤数は少しずつえながら運営しました。

<渡辺委員>

他にはいかがでしょうか。

<酒井委員>

クレンリネスキャンペーンで、普段できない設備のチェックもできたのでしょうか。

<村田館長>

日常点検や不具合個所の点検により対応しております。

<酒井委員>

通常の管理で対応はできているということですね。

もう1点、受付職員が受付でスマートフォンを触っていたというのがあったのですが、これは勤務中所持が認められているということですか。こういったスマートフォンというのはどこかに入れておくというのが一般的ですけども、持ちながら仕事をしているということですか。

<村田館長>

基本的にはロッカーに入れております。

<酒井委員>

基本的にはということは、持たないようにしている。ルールはあるのですか。

<村田館長>

ルールはあります。

<酒井委員>

つまりはルールを守っていなかったということですか。

<村田館長>

そうです。

<酒井委員>

そこが私は聞きたかったです。ルールが徹底されていないという部分の指摘がなくて、タブレットを置いていたというような報告しかないで明確に改善しなければ、また同じことが起きるかもしれない。やはりスマートフォンというものは持っていれば気になりますから。みんな見てしまうと思いますので、そこは徹底された方がいいかと思います。

<渡辺委員>

それでは、次に進みたいと思います。

<村田館長>

そうしましたら、評価チェックシートに沿ってご説明させていただきます。28ページの1番、こちらは主に広報活動の話になります。主だったところを説明させていただきます。ギャラクシティ情報誌を計画通りに発行しているかどうかという点において、ギャラクシティからのお知らせという皆さんにお配りしたものを夏冬発行しております。今まではギャラクシティイベント情報とかは隔月ごとに発行していたのですが、コロナによって紙媒体のものも

難しくなってきたということで季刊発行になりました。外部媒体を行っているかということで、電車広告をこれまでに行ったのですが、昨年に関しましては、東武鉄道の車内モニターを使い、中吊り広告から動画媒体に代えさせていただきました。これによって多少費用も下がりました。足立区のビュー坊テレビも区役所の協力をいただきながら流しました。紙媒体を減らした分 SNS での広域的な発信を行いました。9 ページですが、アウトリーチですが、企業協賛 10 社というのがあるのですが、アウトリーチはできなかったものですから、実績としては報告ができないのが現状です。企業協賛のところですが、後ほど紹介するジャパンフェスタでは、これは1月と2月に行っているのですが、昨年度東京電機大学の学生と連携して、プロジェクトマッピングをやろうという計画をたてました。共同制作をしていたのですが、大学のほうから生徒を派遣できませんという連絡がありまして、断念してしまいました。コロナが落ち着いたらまた再開しようかと話しております。協賛3社については、ギャラクシティ歌舞伎というものを2月に開催しまして、成和信用金庫さんの協賛で行いました。こども体験事業では、「みんなで作る夢の街 建物デザインコンテスト」というもので、ブラザー工業さんに協力いただきました。また、これも新しい試みということで、一般社団法人 VR 革新機構さんに無償で VR 撮影を行っていただきました。加算項目に動画配信とありますので、23 ページの動画配信コンテンツ制作ということでオンラインでも自宅でも楽しめる動画コンテンツを制作、配信するという目標としては、おうちで楽しんでいただくおうちでギャラクシティと題したものを3000回以上、ギャラクシティエンターテイメント、これは主に公演ですね文化ホールの公演の模様をダイジェスト版で配信したものを3本4000回と

いうことを目標に設定いただきました。内容としては、申し上げた通り、お家でギャラクシティ、とギャラクシティエンターテイメントという2つのブランドを用意いたしました。おうちでギャラクシティというのはこどもおよびファミリーをターゲットにして、おうちでも楽しんでいただけるコンテンツを主眼として配信しております。具体的には星空エンターテイメントと題して、ペルセウス座流星群と火星について2本配信させていただきました。はやぶさ2が帰還しましたので、上坂監督に来ていただきまして、講演をしていただきました。また、ギャラクシティ職員が火星の話をしました。あとは、ジャパンフェスタで本当は体験してほしいかったんですけども、なかなか来館をうながせなかったというところで工作4本配信をさせていただきました。3月末の実績で、3895回の再生となっております。もう一つはギャラクシティエンターテイメント主に大人対象で文化ホール、まるち体験ドームの公演を配信させていただきました。14中の出身で斎藤健太さんという方がいらっしゃるのですが、昨年行われた世界大会で優勝した凱旋コンサートを9月に実施いたしまして、以下、ヒノマリズムとあべやはジャパンフェスタの一環で実施しました。また、3人の声優さんと呼んで、声優朗読劇フォアレーゼンを開催いたしました。ジャパンフェスタの目玉として位置づけたのですが、ギャラクシティ歌舞伎として、歌舞伎俳優の市川九團次さんにきていただいて、歌舞伎入門のものも動画配信としておこなって、合計4本6980回3月末の実績ということでございます。コロナ禍において、休館休止の運営が続き、来館者を積極的に促すことが、制限されるなかで、ギャラクシティのイベントや事業をオンラインで広く体験していただくことができました。また今後の来館の動機付けになってほしいなという思いで、配信を行いま

した。特に動画をあげた回数がまちまちでして、9月くらいから上げだしたので、現状ではギャラクシティ歌舞伎が1万5000回くらいの再生回数となっています。24ページには一覧表として打ち出しております。チェックシートに戻っていただきまして、2番の遊び・創作・科学体験事業です。1番2番はですね、事業によって実施回数が問われておりますので、これはコロナ禍で実施ができなかったということです。10ページになりまして、5か年計画ですね、仕事体験というギャラクシティの社会体験事業というのを目玉として挙げておりまして、これもコロナでできなかったと。こどもみーていんぐでは、みんなで作る夢のまちというものを実施しました。自分でプリントアウトして装飾した建物を作ってもらいました。加点項目としてはブラザー社の協賛でオンラインコンテンツとして加えられております。加点項目の25ページ、オンラインコンテンツ制作・配信ということで「みんなでつくる夢のまち建物デザインコンテスト」「ギャラぼんの塗り絵ひろば」をあげています。自分の住んでいる街のことを知るといことで、足立区に愛着を持っていただくために設けたテーマ<自分の街を知り紹介する会>の実施にあたり、まずはどんな街に住みたいかを考える機会を提供することになります。一方的な提供ではなくて、SNS等を活用し、お客様とギャラクシティ、お客さま同士など、ギャラクシティを通じたコミュニケーションをとれるということを目指しました。紙で模型を作っていただき、作ったものを街として眺めたものが、27ページの写真になります。好きなようにデザインして、街を作りました。建物デザインコンテストは、建物のデザインを応募していただいて、応募作品を集めノミネートした方に商品をお渡ししました。それが、28ページ。投票を行い、成果としては来館でも楽しめるというものです。

つづきまして、11ページ運動系です。括弧1番の必須事業ですが、ほかの体験事業と同じようにこちらも自粛を迫られました。11月1日以降遊具が始まりましたので、感染症対策を行いながら、整理券を配布しながら、行いました。事業に関しては軒並み中止になっております。コロナ対策を行いながら遊具を再開するといったところで、まるちたいけんドームも人数制限が50名からはじまって、現状80名です。間隔をあけた配席や換気消毒はもちろん行っております。そのなかで遊べる時間は普段は30分のところを15分程度に短縮しております。その分換気の時間を設けています。新たに足裏消毒器も採用し、時間を抑えながら、体験時間を縮小しながら、11月から開始させていただいております。お絵描きするホワイトあとリエというのがあるのですが、4か所に場所を区切って実施いたしました。結果として、遊具再開を心待ちにしていたお客様から喜びの声を多数いただきましたし、安心して遊べる施設として評価いただいているのかなと思います。最後、12ページをご覧ください。子育て事業の実施回数につきましてはコロナによって減っております。その中でもできたこととして、発信ということで毎月一回ちびっこだよりというものを発行しております。2020年度の総利用申請数ですが、1110件あり、約4割は区外の方でした。あとは当然ですけど、有資格者を配置し、子育て支援員、地域子育て支援の拠点事業という研修に参加しまして、配置をさせていただいております。利用者の案内として英語中国語の案内を掲示させていただきました。主にちびっこガーデンのなかでやっているものはできるものもありました。親子工作とか身長・体重を測る、読み聞かせなどはしております。お子様のお誕生日イベント「毎日のお誕生日」というイベントもっております。あと、子育てサロンの主な内容について、未就学

児が増えたと申しあげましたが、文化ホール事業とサロン事業は年間を通してお客様に集まっていたいただきました。やはり家に閉じこもっていたママさんたちの成長発育の悩みですね、家にいるとほかのお子さんとは比べられないという悩み相談が多くありました。こちらに来ていただいて同じママたちと分かち合うというママさんたちがほとんどだったと思います。あとはおうちで遊ぶ場所がないということで、子育てサロンにくるといのが多かったです。また、こどもの預かり事業というのをやっております、通常6組預かるというのを3組にしております。現在3交代制で子育てサロンは運営しておりますが、始まった6月1日は1時間1組のみという状況で、少しずつ増やしていったということです。次が13ページ。6番のおもちゃは適宜入れ替え追加しながら進めております。3交代制でお客様が帰られた後、おもちゃの消毒を職員でチーム関係なく行っております。定員を減らしていますので、のびのび遊んでいらっしゃるという印象があります。1番から4番まででは以上となります。

<渡辺委員>

ご質問がある方はいらっしゃいますか？

<山縣委員>

動画の視聴者数というのは今増えているのですか？

<村田館長>

今は増えております。

<山縣委員>

ちょっと少ないなと思ひまして。

<村田館長>

そうですね。先ほど申したところで最大では1

万5千というのものもあるのですが、ほぼほぼですね、2千か数千回ほど増えておりますが、ちょっとやはり弱いというか、わくわく工作というのは、4本合わせても393回で現在644回、それ以外は1000回以上の視聴者数を記録しております。

<山縣委員>

印象としては、やはりちょっと少ないかなというのはありまして、もう少し工夫すれば増えるのではないかなと、見てみると面白くてですね、見た人はまた見るような感じがするので、もったいないなというような感じがします。毎月配信してあげるといいかもしれない。

<村田館長>

そうですね、我々もフルオープンがいつになるかわからないという中で、忘れてほしくありませんから。家で次に来るきっかけになるようなものをできる限り制作することを心掛けております。一方で長いものもありまして、文化庁のですね申請が通りまして、ダイジェストでちょっと時間が45分できめられているものもあつたりして、本当はもう少し短くしたかったのですが。ホームページでも紙媒体も含めて動画の宣伝は行いましたが、伸び悩んでおります。

<山縣委員>

いいものなのでもったいないですね。

<渡辺委員>

他にはいかがでしょうか。それでは、ここで一旦休憩としましょう。それでは、35分より開始したいと思います。

【休憩】

<渡辺委員>

はい、それでは休憩をはさみまして、ヒアリングの続きをしたいと思います。

<村田館長>

それでは13ページをご覧ください。まるちたいけんドーム活用ということでございます。通常であれば、そちらも投影回数1900回と仕様書上決められているのですが、765回しかできなかつた。数で追われるものに関しては、すべてコロナの影響を受けております。その中でも、かつこ4番のGがくえんの天文部につきましては、なんとか8回くらいはオンラインを含めてできました。実際は中止になってしまった回数の方が多いはあるのですが。それでは、14ページをご覧ください。かつこ8の5か年計画ですね。通常、2月に国際映像科学祭というものをしているのですが、やはり中止になりました。そこで星のソムリエ講座というものを毎年やっております。また、Gがくえんの発表をやる形で動いていたのですが、これが残念ながら中止になってしまいました。あと、足立の花火の映像投影というものも書かせていただきました。2019年の5か年のところで、主だったものとして、映像投影として足立の花火を挙げさせていただきました。リアル足立の花火が2年連続で中止になりまして、観光協会様から花火の映像をお借りして、我々の職員で編集をしまして、ドームで花火を挙げたと、映像を流したと。これが大変好評で、通常は1か月、2か月だったのを11月まで投影機も伸ばしました。これが昨年できたこととなります。ドームは1万4989人、昨年のわずか7パーセントということになりました。その中で、加点項目としてまるちたいけんドームだよりというものをあげさせていただきましたので、加点提案書の31ページをご覧ください。新型コロナウイルスの感染症の影響をうけてまるち

たいけんドームの休止期間中にも、家に居ながら宇宙についての学びを深めてもらうことを目的としていました。実施予定だった事業であるとかタイムリーな天文イベントに紐づけた特集も行い、お客様に関心を持っていただきたいという思いで発信しました。投稿数としては60件という目標を掲げ、期間としては5月8日から3月29日まで。結果として投稿数は72件挙げさせていただきました。プラネタリウムの解説員が特集・テーマごとに記事をまとめて、毎週更新。アーカイブ化して、過去の特集もいつでも読み返せるようにしました。結果、アーカイブページとしては、ページビュー数3875回。2020年8月の来場者アンケートですが、ホームページコンテンツの認知率の項目で36パーセントまで上がり、1位はペルセウス座流星群だったのですが、まるちたいけんドームだよりが2位という成果を挙げたということになりました。ほんの一例になるのですが、32ページの金星のまるちたいけんドームだよりです、このプラネタリウムの解説員が特集してお届けしているのが、まるちたいけんドームだよりということで、加点項目として挙げさせていただきました。続いて、評価チェックシートに戻っていただきまして、15ページの7番の開発事業になります。アウトリーチが抜けました。14ページ6番のアウトリーチプログラムです。アウトリーチに関しては、移動天体プログラムの20回の計画、ワークショップキャラバンの33回の計画に対しては、コロナのため断念せざるを得なかったということになりました。ほぼほぼアウトリーチはできずじまいで終わってしまいました。一応、計画は立てておりました。まるちたいけんドームができなかった時期もありましたので、映像投影の代わりに、スペースアスレチックという遊具があるのですが、その下で行おうということで、プロジェクター投影ということで「光の世界」という

投影を行いました。あとは、先ほどもあった花火をプロジェクターでロビーの方やエレベーターの上ですとか空いたスペースに投影を行ってお客さんに楽しんでいただくこともやりました。プラネタリウム以外で、ロビーとかでもプロジェクションマッピングとまではいかないですが、プロジェクターを使った投影を行いました。あとは、デジタルコンテンツ、デジタルきゃんばすは2種類しかありませんでしたが、昨年度交換しまして、サッカーゲームとバルーン風船で遊ぶ2種類のゲームを導入しました。もちろん、この2種類以外にも、コンテンツを変えれば新しい種目、遊びができるというものに変えさせていただきました。体験キットというものは、わくわくデスクのキットなんですけれども、ギャラぼんのぬりえですとかお寿司のキットというのを3種類を合計5キット構成を目指しました。かっこ2番の人材育成ということで、まるちたいけんドームでは総合天文講座というものがあまして、その修了者は、観望会ですとか、例えばアウトリーチの移動天体で星の観察、観望会などでお手伝いをしていただけるという方がすごく多いのですが、10名が全員天文ボランティアに登録したということで、仕組み作りとして計上させていただきました。続きまして、16ページの5か年計画に関しましては、遊び体験とデジタルコンテンツを開発したということです。ボランティア団体は計上しなかったのですが、それに代わるものとして先ほどの天文講座を受けた方が、われわれの星を見る会で、そこでのサポートをしていただけるということになります。新しい試みとして加点提案です。館内VR撮影をしました。休止・休館中においてオンラインでギャラクシティの3D映像体験を体感していただくき、さらにはギャラクシティの注目度を挙げたい、灯を消さないために行いました。ホームページのアクセスは3500回をクリア

しました。実施時期としては5月一般社団法人VR革新機構というところに協力いただきまして文化ホール含む館内全体をVRカメラで撮影して、それをホームページ上で公開しました。ただ公開するだけでは面白くないので、撮影時にクイズを仕掛けました。また、ギャラぼんというマスコットを忍ばせまして、それをホームページ上にアップした時に探してもらうというクイズラリーをしました。撮影時に仕掛けをして、オンラインコンテンツの企画に至りました。成果として、ギャラクシティの3D映像を活用して、自宅で楽しめるイベントとして実施。また、普段見られない文化ホールの楽屋を見ることができ、またチケット販売で席の案内がしやすくなる等、3D映像ならではの効果がありました。HPのアクセスは4079回となり、たくさんの方にご覧いただきました。よく文化ホールの出演者の方が楽屋の中はどうなっているかという質問があります。もちろん冊子でお渡しはしますが、この3D映像は楽屋の中まで入り込めますので、楽屋の様子が分かるようになっていきます。あとは、ステージ上の距離や尺ですね。もちろんステージだけじゃなくて、モールなどの尺も図れるような仕組みになっておりました。普段見られないようなことやクイズ企画も含めてたくさんの人に利用していただいたと思います。このように全館撮影して、一番上に関してはこども体験施設、真ん中はVRカメラ、下は文化ホールです。文化ホールの座席も何番の何ということがすぐわかるような感じになっております。ただ、12月までの契約で、それ以降は費用がかかるということで、いったん断念しておりますが、また新しい業者を探しています。続きまして、ふれあい事業です。開館に合わせ、ギャラクショップの運営を行いました。あと、館内の飲食は今でも禁止になっております。当初の感染症対策で一番厳しかったものが、マスクを外しての飲食

です。ですので、食事を禁止し、椅子も間引きながらやっております。中高生の居場所作りとしてのGがくえんは、オンラインを含めながら、人数絞りながら何とか年間通して行いました。やはり1番大きかったのは重点事業でもありません。ジャパンフェスタ2021を会場とオンラインのハイブリッドで行ったというのが大きいと思います。また、Gがくえんの発表会についてです。毎年、3月に各チームもしくは合同で発表会をしていたのですが、1月、2月の自粛要請が厳しくなった折に、練習機会が無くなったということで、シンガーソングライター部だけ無観客で発表曲を録音してホームページにアップさせていただいております。こちらは特に加点はありません。続いて、9番の大人体験事業です。これに関しては、軒並み0回ということで、もちろん計画はしておりました。1番に関しては大人向けのクライミング事業。2番は大人向けのものづくり事業ですね。あとは、まるち体験の水曜日の大人向けの時間も予定はしていたのですが、やはりコロナ禍において我々のメインである未就学児保護者小学生を再開したとしても、それを優先するべきではないかということで、それを優先するあまり、大人の事業にかんしては手薄になってしまったと。計画は事前にしておりました。ということで、5番から9番までは以上となります。

<渡辺委員>

ここまでで質問がありましたらどうぞ。

<酒井委員>

よろしいですか？3DのVRですが、こちらは費用がかかるからもうやってないのですね。どのくらい費用がかかるのですか？

<村田館長>

通常、うちの施設でVRカメラを用いて撮影

すると、その業者さんがおっしゃっていたのは、500万かかると。それを今回は無償で、ボランティアでやってもらえました。

<酒井委員>

撮影はボランティアで、無償でもらえたということですか。

<村田館長>

はい、その代わりに撮ったものをホームページ諸々でPRするという契約をしておりました。

<酒井委員>

費用は一切かかっていないのですか。

<村田館長>

かかっておりません。著作権がVR機構にありまして、12月以降、著作権ごとうちにくるのであれば費用がかかるので、そこはちょっと区役所さんと相談し、一旦、元々期限が12月だったのでやめましようとなりました。なかなか500万はきついで、次も500万という訳にもいかず、ただ今動画配信の業者さんと知り合うようになってからは、お値打ちで30万でできますよという業者さんがでてきたので、それはご相談しながら、もしかしたら継続したいかなという思いはあります。

<渡辺委員>

他にはいかがでしょうか。では、西新井文化ホール事業のほうに移りたいと思います。

<村田館長>

はい、では18ページをご覧ください。1番文化交流の場となる環境作りということで、区内の音楽が芸術家との交流、情報収集及び提供を行っているかということで、軒並みやはり公演の中止、特に4月5月は休館になって、9月

までは主催公演は一切しておりません。2月に足立区演劇連盟さんとジャパンフェスタ2022という実行委員会を立ち上げました。文化庁こども伝統芸能体験事業というものにも申請する動きを2月から初めて、結果、今年度にはなるのですが、5月に申請が通りました。その伝統文化の申請事業が何かといいますと、こどもたちが伝統文化を体験する機会がコロナ禍で失われておりますので、その伝統文化体験回復機会事業というものを見つけまして、我々が今新しく活動しております、能や狂言をやられている演劇連盟さんと話し合いをしまして、観光連盟さんや観光協会さん、郷土博物館さんなど色々ご協力いただいて、立ち上げてジャパンフェスタでこれを実施したらどうかという話がありました。結果的に能ですとか狂言ですとか、祭囃子、こども歌舞伎、あとは飴細工ですとか、伝統芸能含めこどもたちに体験してもらう事業を今年の9月から始め、来年の1月のジャパンフェスタで発表するという教室型の申請と、ジャパンフェスタそのものの申請がありまして、それに向かって今動いております。7月にブリランテイベントというのがあるんですけども、これも支援団体として活動しておりますブリランテが年2回開催しているホール事業があるんですけども、夏は中止になり、7月に本開催のイベントを計画しておりましたが、こちらも中止になってしまいました。交流活動はコロナ禍でも一応しておりました。2番、区内外の文化施設と連携を図っているかということで、公立文化施設協議会の副会長職を2年間務めております。その中でやはり、コロナ関係のガイドライン、内閣官房のガイドラインに基づいて東京都と足立区というように対策ガイドラインが来るのですが、ホームページを立ち上げようということで我々が企画提案しまして、立ち上げまで行いました。我々も9月から文化ホールの主催公演を始め

ましたし、貸館を含めてなんですけれども、内閣官房のガイドラインがいち早くこれにアップされましたので、ほかの公立文化施設と情報共有しながら、試行錯誤しながら、共有できたのが一番大きかったのかなと思っております。加点項目として挙げました、35ページご覧ください。東京都公立文化施設協議会ホームページ立ち上げということで、コロナ禍における内閣官房からのガイドライン、国等の助成金申請情報等の情報共有が目的となっております。当初、やはりコロナによってどこまで文化ホールをやっているのかというのが、我々も当然分かりませんでしたし、他の施設も同じ状況になりまして、一つの指標としてはすごく助かったのかなというところです。公文協ホームページ開設とコンテンツ内容のアドバイスが目標、要するに開設自体が目標です。6月くらいから企画しまして、7月くらいには立ち上がりました。内容はスケジュールはですね、予算設定をしながら、業者選定をしまして、業者決定後、打ち合わせをしまして、各加盟店へのアンケート調査をしながら、ホームページを立ち上げました。コロナ禍において、文化ホール事業を開催するにあたっての内閣官房からのガイドラインがいち早く共有されており、開催可否の指標の一つとして大いに役立っております。各館での感染症拡大防止策や公園実施状況や物販状況などの細かい情報も運営の手助けとなっております。その他にも助成金情報なども参考になっております。緊急事態宣言での出演のキャンセル料の話だとかそういった情報も参考になりました。36ページには立ち上がったホームページが載っております。コロナウイルスアンケートも各館にとっておまして参考になりました。皆さん最初は試行錯誤で運営をしておりました。続きまして、19ページになります。区民応援型事業の実現ということで、毎年、音楽コンクールというものを開催しております。

実際はピアノのコンクールですが、これを3回実施いたしました。それから先ほど出ましたブリランテ。これは、9月講演として1回開催をし、合計で4回実施いたしました。かつこ2番、音楽4団体がシティーオーケストラ、吹奏楽団とかありますけどもこれは軒並み中止になりました。広報宣伝、チケット発券、今回新たに加わったのが返金業務です。これがかなり大変でした。歓喜の演、ブリランテの支援というところになりますけど、ブリランテ公演1公演、歓喜の演も合唱と狂言、2公演行っておりますけども、歓喜の演も実際の公演はなくなったが、今後のためにこれからどう活動していくかということを含めた勉強会をホールで実施し、そのお手伝いをさせていただきました。チケット発券業務は通常通り行っております。チケット発券する前に講演そのものが中止になったものもあります。そして、足立区音楽祭。これは毎年9月に実施しております。実行委員会に、私どもの職員も参加しておりましたが、通常はチラシ制作、アドバイス等ということになっておりましたが、これも早々に足立区音楽祭自体の中止が決定してございまして、今回も昨年度と同様中止になってしまったと。5番の5か年計画に関してはコロナの影響があつて、昨年の大ひょうげんですね足立区や日本の伝統文化芸能の発表継承をとおして、こどもから外国人まで幅広く交流できる事業が中止になりました。リピート希望率は区民の方に向けアンケートを取りたかったのですが、コロナの関係で紙のアンケートを配れないのでやむを得ず、断念しました。その後、アンケートを取るために、QRコードのアンケートを導入しました。チケットもぎりも今はお客様にさせていただいています。続いて、20ページをご覧ください。エンターテイメント事業の仕様書的にはですね、21本やらないといけないのですが、9月から先ほど申し上げた斎藤健太さんの公演を皮切り

に、3月までで10回公演をしております。ただし、4月から含めてコロナの中止38回。38回は多いような感じがしますが、入場者が900のところ、実際に入るのが、450です。そうすると元が取れませんので、2回にしようという流れがありました。その2回もつぶれています。延期したけどもその延期もつぶれています。それで、38回ということです。2番の5か年計画のオリンピックイベントですが、オリンピック自体が延期となったので、今年度、代替のイベントを行っております。ジャパンフェスタに関しましてはですね、来館と動画で二本立てということで、来館限っては極力、人数を押さえましたので、結果的に720名。ホームページビューに関しては1万2313回。これは5月31日までの数字になります。エンターテイメント事業は10本で2945名、コロナでの中止が38回ということで計上させていただきました。その中でも加点項目として挙げさせていただいたのが、ジャパンフェスタ動画配信というものになります。加点提案書をご覧いただきたいと思います。37ページです。最後の加点提案書となります。ジャパンフェスタ in ADACHI 2021 アットホームというオンライン配信。コロナ禍における重点イベントの開催方針として、感染症対策を講じた上で、会場での公演イベントに加えて、コンテンツ動画配信を実施して、来館しない方にも楽しんでいただけるようにしました。動画制作・配信は2本以上、動画再生回数は2500回以上を目標としておりました。2月1日より順次アットホームということで配信を行いました。配信プログラムとしては、足立区出身津軽三味線ユニットあべやさん。公演は450人満席となりました。ギャラクシティ歌舞伎市川海老蔵さん一門の歌舞伎俳優市川九團次さんによる歌舞伎入門講座。市川海老蔵さんはじめ名門の成田屋一門の若手俳優によるワーク

ショップ、お囃子講座、九團次さんの舞踊という
ことで、こちらも満席になりました。一方で
あべやもギャラクシティ歌舞伎も動画制作し
てダイジェストで配信しました。あともう一つ、
ねぶたでライト制作です。これはNTT東日本
さんのご協力をいただきまして、祭りが全国的
に中止になり、ねぶたも中止になりました。N
TTさんと事業協力をしておりまして、たまた
まNTTさんもねぶたを制作していて、毎回優
秀賞に残っておりまして、それを使って何かで
きませんかねということで、ジャパンフェスタ
は伝統文化やお祭りを紹介するイベントなの
で、何かできないかなということで、ねぶたを
ミニチュア版のライトを作ろうかというこ
とで、実際にねぶたのNTTの青森支店さんの方
からねぶた師を先生に迎え、ここで生徒さん
たちが集まって10名ですが、ねぶたの制作をし
たという形になりました。あとは動画配信コン
テンツでも説明しましたわくわく工作も配信
しました。あとは大学連携。東京電機大学の学
生と連携して、プロジェクションマッピングを
作成していましたが、残念ながら、学生を派
遣できないということで、中止となりました。
これをきっかけに新たに映像制作をして、ス
ペースあすれちつく下で投影を「光の世界」と
いうことで実施いたしました。成果としては配信
実績ジャパンフェスタ2021アットホーム
全体で3月24時点ですが、2987回。わく
わく工作は385回。これは8月1日時点の実
績になります。あべやは438回。ギャラクシ
ティ歌舞伎は3月時点では2164回でした
が、8月時点では1万4877回となっております。
今年は会場に加えてオンラインもあるとい
うことで、今年も無事に開催されるという認
知ができたのかなと。全国的なイベントや祭り
が中止延期となる中、感染症対策を講じ、演目
など規模を縮小し、会場開催に加えてオンラ
イン配信も実施し、重点イベントであるジャパン

フェスタを無事に開催できたことは、とても意
義深いということになります。続きまして、2
0ページの4番興行事業の数値目標というこ
とになります。動員率は通常であれば、チェッ
ク項目に載っている75パーセントが目標で
ありますが、先ほど申しました通り、9月から
10本の中で、人数を450名に絞らざるを得
ない中、集まりにくい中で、69まで行けたの
は良かったのかなと。これは公文協の方にも聞
いても、半分にしても半分が埋まらないのが現
状ですからと、軒並み公演が中止というのが続
きましたし、そのなかでも75というのは高い
ハードルだったなど、結果としては69までい
けたと。顧客満足率は98パーセントで10本
の中の数字であります。リピート希望率も水
準が高い数字で、94パーセントでありまし
た。利用の状況は21ページになります。利用状
況に関しましても、26万2367名というこ
とで、8割減という数字にはなりましたが、
先ほどから申ししている文化ホールに関しま
してはですね、実は年間を通して空いている時
期が多かったです。我々も9月から事業を実
施しましたけども、貸館としては、6月から大
幅人数制限、使用時間制限8時までとか9時
までとかいう中で実施してきました。その中
でもですね、貸館も含め高い利用率が、65
パーセントという数字が計上できました。感
染症対策としても、終わったあとの消毒やサ
ーモグラフィーを貸館のところに貸し出し
したりとか、座席の間隔を取るようにしたり
等実施しました。最後になります。アンケート
のところ22ページになります。これに関し
てはですね、ご指摘いただいた館内表示が
分かりにくいということと情報誌の認知度
が低いというのがあります。館内表示が分
かりにくいというのは、昨年度は文化ホ
ールが分かりにくいという声が上がって
いたかと思うのですが、文化ホールに関
してはですね、文化ホールの前に大きな円
柱の柱が

ありまして、そこに大きな案内シールを貼ったのですが、それでも分かりにくいという声が出てしまったのは残念なのですが、現状、9月から文化ホールの公演を開く時は必ず入口で正面に誘導しております。レセプト業務はホールの入り口でやるのですが、正面玄関でもう一人立たせて、誘導を行っておりますので、以前よりは案内表示は、文化ホールに限って言えばですけど、分かりやすくなっております。情報誌の認知度が低いということですが、積極的な事業を控えた中で、紙媒体を発行する中で、絶やさずにギャラクシティからのお知らせというのを春夏に出しましたが、それに代わるものとして SNS ホームページを強化しましたが、その分、確かに情報誌の認知度が低くなったのは致し方ないのかなと。今後も SNS で、引き続き事業をオープンして実施するからにはですね、積極的に、とはいえこの状況で宣言が伸びてしまいますので、難しいところではあるのですが、安全安心、感染症対策を施した上で、できる事業というの担保して、それをしっかりとお客様にご案内して実施していきたいかなというように思います。以上になります。

<渡辺委員>

はい、ありがとうございました。それでは、ここまででご質問がありましたらお願いします。

<伊志嶺委員>

支援団体は毎回同じような方が参加されているのですか？

<村田館長>

いいえ、募集は毎回しております。ブリランテさんもそうですし、歓喜の演もそうです。毎回募集しております。もちろん核となる人もいるのですが、新しい人も取り入れて、活動して

おります。その発表が年に一回あるという感じですか。

<伊志嶺委員>

支援団体を支援することによって、団体の自主性を高めることを目的ではなく、長期的に支援を続けるということでしょうか。

<原田係長>

入れ替わりがあるので新しく団体に入られた方に文化を支援して、新しくオーケストラやったりとか合唱をしたりということもあります。既存の文化活動を積極的にやっていただいている団体さんたちでもあるので、そういったところを支援して、足立区として文化の根を絶やさず、文化を広めていくという支援をしております。

<伊志嶺委員>

四団体は変わらないのですか。新しい団体を入れるなどを考えていませんか。

<原田係長>

既存の団体支援をやめるというところは考えおりませんが、新しい団体についてはそのような団体があれば考えたいと思います。

<伊志嶺委員>

西新井文化ホールもオンラインを増やしていく予定はありますか。

<村田館長>

我々もオンラインを考えております。オンラインも無料と有料のものがあり、会場の集客としても定員の制限もあります。利用者からも有料配信のご意見をいただくこともあります。今後区と協議していきたいと思います。

<伊志嶺委員>

この機会に西新井文化ホールが先に行けるようになるといいなと思います。

【意見交換】

<渡辺委員>

それでは本日のヒアリングをそれぞれの感想をお一人ずつご意見としていただきたいなと思います。

<酒井委員>

コロナの中で大変だったというのは分かりました。ただ、できないと決めて工夫が足りなかったと思いました。

<伊志嶺委員>

VR撮影など面白い取り組みをされていますが、残念なことはそれが継続されていないということです。館内に来ってもらうための呼び水の動画ではなく、動画によって新たな価値を創造していく、クオリティを上げていく必要があると思いました。もっと攻めていいという気がいたしました。

<四宮委員>

本当良いものを作っておられるのですが、ギャラクシティの情報が意外と流れてこないような気がします。足立区のツイッターとなると桁違いの配信となるので、そちらを経由して流すとかそういった利用をされる良いと思います。

<原田係長>

区のツイッターはフォロワー3万人いるので区の方でもギャラクシティのPRをしたいと思いますが、ギャラクシティのフォロワーは伸びましたけど1100人程度ですの

で、ギャラクシティのフォロワー数も増やしていきたいと考えています。

<渡辺委員>

コロナの影響はまだまだ続くので、なるべく早くから対策していくことが重要だと思います。それでは、本日の質疑応答というのはここまでにしましょう。それでは、事務局にお返しします。

【事務連絡】

<山縣委員>

以上をもちまして、足立区ギャラクシティ第1回運営評価委員会を閉会いたします。

【閉会】